

走れ 匠吾

采女が丘
グリーンパトロール活動記録

(183号-B)



(内部市民センター玄関前)

この懸垂幕はオリンピック出場が決まってすぐ私が注文して作ってもらったものです。エッ見てないの？
なかなかいいですよ、見てください。
中村君が帰ってきたらよろこんでくれるとおもって...

〈そうですよ、監督の思いそのものですね。ところでこのごろの選手はマスクが慣れが目立ちませんか？
「まわりの皆さんのおかげ」とか「父母に感謝とか」ですか。たしかに。うれしいことですが逆ですね。

〈オリンピック出場が決まったとき監督はとびあがったでしょう？〉

うれしかったですねえ。あんまりうれしかったことはあとにも先にもないですよ。残り30kmになって立ち上がって応援していた。涙があふれて止まらなかった。

だがその後オリンピック延期となったのは残念。今はどんな形でもよいから走りきってほしいと願うばかりです。

走りきるといっても大変です。42.195kmは長い。ひとりで何を考え何を思えばよいのか。孤独に耐えて黙々と走るのです。アクセルを踏む、ブレーキを切ることを考えて...



(四日市ホムニュースから写真拝借)

激流の中の 木葉のごとく

上野工高(現伊賀白鳳高)の監督だった故 町野英二さんが繰り返した言葉だ。匠吾さんの座右の銘になるだろう。



これはマラソンのスタートではなく、ドッジボールだ。2004.10.10 この初い初い緊張を思い出してくれ。(前列右端)



2018.10.7
内部小にて

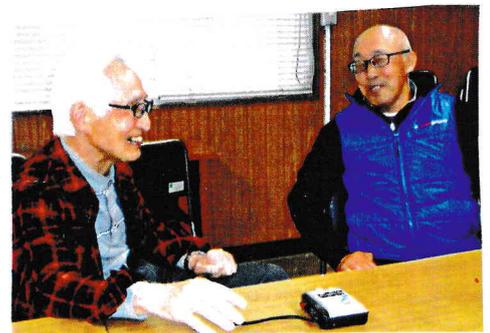
私たちがの方が選手に感謝です。このような感動を与えてくれるのですから。

私もまだ元気ですからこれからも子供たちの育成にかをいれるつもりです。そして子供たちの笑顔が何にも勝る。

今は何よりも匠吾君の応援をよろしく！

ありがとうございます。こんなやさしい人が監督だったんだ。子供たちを育てるのはむずかしいだろうに。

(インタビューはグリーンパトロールの 伊田清吾でした)



2021.4.16

水谷 渉 監督

